

沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



目次

1 校長あいさつ ～職業教育の充実に向けて～	2	9 第10回高専祭～スナップ～	13
2 卒業生に贈る言葉	3	10 学生の活躍	14～16
3 卒業にあたって	4～5	11 地域連携推進センター	16
4 学生の様子	6～7	12 世界の扉～とびたて！JAPAN～	17
5 インターシップ体験記	8～9	13 学生会・寮生会・後援会より	18
6 就職・進学状況	10～11	14 平成27年度学生募集結果一覧	19
7 修了生に贈る言葉(専攻科長)	11	15 保健室より	19
8 専攻科修了にあたって～創造システム工学専攻～	12	16 平成27年度(前期)行事予定表	20



国立 沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL:0980-55-4003 FAX:0980-55-4012
HP:<http://www.okinawa-ct.ac.jp>



職業教育の充実に向けて

校長 伊東 繁

昨今、少子・高齢化により将来の労働力人口が大きく減少するという予測があるなかで、労働力をいかに確保すべきか、という議論が多く見受けられます。しかし、目を向けるべきは労働力の質の問題であり、学生や生徒が学校から社会に出て、しっかりと自立し活躍出来るように、それぞれの個性や能力を十分に伸ばし、かつ職業に必要な専門的知識と技能を効果的に修得できるように教育機関における職業教育の見直し、改善と、一層の充実が求められています。

高専の教育は、早い段階から職業意識を養い、社会や産業界の情勢に即応した実践的な技術者教育を行うことを特色としています。沖縄高専は、まだ歴史の浅い高専ではありますが、創立以来、改組やカリキュラム編成、企業におけるインターンシップ(就業体験)や国内外の教育機関との学術・人的交流、海外研修や留学生の受入れなど技術者教育の充実、改善に取り組んできました。今後もさまざまな取り組みを進めてまいります。

本校は、平成27年4月より、航空技術者プログラムを新規に開設します。

昨年10月に、日本初の小型ジェット旅客機となるMRJ(三菱リージョナルジェット)の完成披露が行われ、話題となりました。これまでは海外旅客機の製造に一部日本の技術が利用されていましたが、いよいよ国内の工場では、国産旅客機の製造が始まります。

また沖縄では日本国内各地とアジア諸国を結ぶ拠点として、航空便による国際物流の事業が進められています。世界の航空貨物需要は2014年から2033年の間に年平均4.9%で増加し、なかでもアジア・太平洋地域は旅客需要と同様、世界最大の市場となる見込みです。

加えて、LCC(格安航空会社)の設立によって、航空旅客者数が近年飛躍的に伸びています。しかし、パイロットが慢性的に不足しているうえ、整備体制の遅れによる欠航が生じた事例もあり、航空業界の人材不足の問題は、国内外で大変深刻になっています。

本プログラムを修了した学生が将来、優秀な航空整備士、エンジニアとなって、航空業界の発展と沖縄の経済産業の振興を支え、世界も視野に活躍していくことを願いつつ、民間航空会社の協力も得ながら、充実した教育環境を目指してまいります。

さて、この春、本科第7期生と専攻科第5期生が卒業します。科学技術は人々の生活をより豊かにすることを目指すものであり、技術者の見識と絶え間ない努力がそれを支えています。これまで以上に努力を重ね、厳しい局面にあってもしっかりと前を見て、挑戦する勇気を持続けていってほしいと思います。そして将来にわたって、素晴らしい出会いに満ちた豊かな人生となることを願っています。

最後になりますが、地域住民の皆様をはじめ、後援会、沖縄高専産学連携協力会の関係各位、他教育・研究機関、産業界の皆様には日頃より本校の教育・研究活動に対し、ご理解とご支援をいただいておりますことに心より御礼を申し上げます。今後共、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。





5学年 学科担任
山城 光

卒業おめでとうございます。この一年間、皆さんのサポート役として、武村先生と二人三脚でやれたことを、とても嬉しく思います。多くの思い出話は語れませんが、クールに門出のメッセージとさせていただきます。

5年前の入学式、何となく幼さを感じる皆さんと一緒に校歌を斉唱したあの頃を思い出し、他の先生方と顔を見合わせながら一言、「子供って成長するのだね〜」。多分、来る3月14日の卒業式では、私たちは皆さんのご両親とご家族の「思い」に共鳴しながら、キラキラ輝いている皆さんを眺めていることと想像します。私は「別れ」という言葉が嫌いです。だから、これからもフラットな気持ちで皆さんのこれからを見守り、もしも皆さんの「ふがいない」姿を見たときは、これまでと同様ストレートに叱咤激励したいと思います。また、「めでたい」ことがあれば、一緒に喜びを分かち合いたいと思います。だから、嬉しいとき、落ち込んだとき、やる気が失せたとき、ひまなとき、・・・、遠慮なく学校の門をくぐり、研究室に顔を出してください。最後に、皆さんへの期待を込めて一言。人間いくつになっても、「人生これから、やるべきことは山ほどある」です。つまり、そう思えるからこそ、人は努力し、成長し、多くの成長の「節目」をつくることで、周囲に期待と楽しさを与えることができるのであろう・・・、と最近感じます。これからも、「楽あり、苦あり」の「成長の節目」を乗り越えながら、開拓者精神あふれる素養に磨きをかけてくれることを期待します。やればできる。為(な)さざるなり、能(あた)わざるにあらざるなり！



5学年 学科担任
荻野 正

5年情報の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この2年間副担任として見守ってきた皆さんが、新しい未来に無事巣立っていく姿を見ることができ、感無量です。たまたまですが、自分の息子が皆さんと同級生だったため、放課後友人たちと楽しそうに談笑する姿や、進路について相談に来た時の不安な眼差しが、息子の姿とオーバーラップして、ついつい話し込んでしまったこともありました。「就職決まるのかな?」「単位が足りるのか?」「卒業できるの?」と本当に親子のようにハラハラドキドキしながら過ごした2年間は私にとってもかけがえのない時間でした。皆さんには大変感謝しています。

皆さんは、いつでも一致団結し、体育祭や高専祭でいつも盛り上がり過ぎていましたね。時には盛り上がり過ぎて羽目を外してしまうこともありましたが、それも良い思い出だと思います。これからそれぞれが違う道を歩んでいく皆さんですが、同じ時を共有した高専の友達はきっと一生の友達になるはずです。苦しい時、辛い時、悲しい時、本気で相談に乗ってくれる仲間をいつまでも大切にしてください。

そんな皆さんに、自分が20歳の時に知っておけばよかったと思うことを1つだけお話しします。それは「時間」の大切さです。自分もそうでしたが、おそらく皆さんも、20歳の自分には時間はいくらでも残っていると思っていることでしょう。

ところが、時は誰にとっても平等に、1日たてば24時間消費されて行くのです。その24時間を無駄に過ごすのも、有効に活用するのも、人生に対する自分の責任です。24時間をフルに使う場合と、23時間分しか使わない場合では、将来大きな差になって現れます。皆さんには、是非24時間を活用して大きく成長して欲しいと願っています。そのためには自分の人生を見つめなおす必要があります。就職とか進学とか、おおきな変換点にいるまさに今、時間をかけて自分自身に問いかけてください。そうすれば、自分の24時間を何に使えばよいかのヒントが得られると思います。(さらに、1日を24時間以上使う方法もあるのですが、それは上級者向けなので、今は秘密にしておきます。)

最後に、一言。卒業というこの日まで育ててくれた保護者のみなさんに、是非感謝の気持ちを伝えて下さい。その一言をきっと待っているはずですよ。それでは、皆さんの今後の大いなる活躍を期待しています。



5学年 学科担任
太田 佐栄子

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本校に入学してから授業科目ひとつひとつ合格するために様々な努力をしたと思います。また、思うような成績が残せず悔しい思いをしたかもしれませんね。教育課程のすべてを経たみなさんに心からおめでとうをおくります。そして、学生会や寮生会、高専祭実行委員など、学生全員が快適で楽しい学校生活を送るために頑張ったみなさん、ありがとうございます。

私はメディア情報工学科4学年と5学年の2年間、担任を務めました。この2年間はとても楽しい思い出ばかりです。学期始めにみなさんに書いてもらった「今学期の決意表明」や、ときどき「ない!ない!」と騒いだ学級日誌、いつのまにかお菓子パーティーの様相だった体育祭、やるときはやる!みなさんの姿を見たインターシップ、世界観にこだわった4学年の高専祭、一致団結して全員合格を勝ち取った科目〇〇。すてきなランチと体力の限界を味わった5学年の体育祭、刷新されたばかりのワークステーションをフル稼働して編集作業をし、そっと翼を授けた5学年の高専祭。あなたたちと一緒に過ごし、私もk回目の学生生活を送ったような気分でした。

さて、みなさんはこれからそれぞれの道を進んでいくことになります。次のステップでもみなさんの個性を発揮して充実した日々になることでしょう。自信を持って行動すれば大丈夫です。もし、誰かに頼りなくなったら、クラスの仲間、同窓生、先輩に話をしてみてください。きっと、今までそうやってきたようにさりげなく手を差しのべてくれたり、集結して励ましてくれたり、新たな見方を提示してくれたりするはずです。わたしたち教職員もみなさんのこれからの成長を遠くの地で見守りつづけたいと思っていますので、たまには学校に近況を伝えに来てくれると嬉しいです。卒業おめでとう。張り切って前に進みましょう。



5学年 学科担任
田邊 俊朗

7期生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんが無事に卒業式を迎えられたことに大きな喜びを感じています。長い高専生活、楽しかったこと苦しみ耐えたこと、みなさんの心に様々な出来事が甦ってくると思います。それは私も同じです。担任としてクラス運営が円滑に進められたのかと自問すると反省点が多いのですが、級長はじめそれぞれの学生が自主的によく動き、クラスを支えてくれました。本当にありがとう。

この5年を振り返ると、入学式でみなさんの氏名を読み上げ、授業では出欠確認をし、高専祭や体育祭での登校確認、研修旅行では朝夕問わず行く先々での点呼、卒業式でまた氏名を読み上げ・・・1年から5年までずっとみなさんの学科担任をしてきた私はいったい何回みなさんの名前を呼び、みなさんはいったい何回返事してきたのでしょうか。毎回々々出席簿に印をつけ、みなさんが全員揃い、それぞれが元気で無事であること、きちんと登校していることがわかった瞬間が、担任として最も嬉しく、安堵する時でした。反対に誰かが体調不良や欠席の時には、心の底から心配でした。卒業したみなさんの出欠を取ることは、私はもうできません。これからはみなさんが自分自身で、己の健康と無事を毎日確認してください。これが自分を律するという事です。たとえば、みなさんは今後の人生で様々な苦楽を経験することでしょう。困難に立ち向

かう時、高専で培った課題解決能力でうまく乗り越えることも、失敗することもあるかもしれません。たとえどんな時であろうとも、きちんと3食食べ、早寝早起きをし身体を整えてください。いつの日か、みなさんが仕事で成功を収めたとか、新しい発見をしたとか、そういう報告があればもちろん嬉しいです。ですがそれより何より、みなさん、末永く元気で無事であってください。多分に心配性ですが、これからもみなさんの無病息災を願ってやみません。

5 学年
松永 啓詳

『いやー長かった 8 年間だなー!』って言うと、たぶん多くの方が驚くと思います。

今なら笑ってごまかせますが、私は沖縄高専に来てから、卒業するまでに一番寄り道をした人だと思っています。というのは、一度自主退学し内地で働いていました。それから 2 年間留学して、また沖縄高専に戻って来たわけなのですが、高専を出て気づかされたことがあります。それは、ものすごく多くの企業の方々が高専生を欲しがっているということです。実際、私が留学していた時も高専出身というだけで、某大手企業からオファーが来ました。当初、私は高専を卒業していなかったで、それにこたえる事が出来なかったのが非常に残念です。もうすぐ沖縄高専を卒業することになりますが、私にとって卒業は終着点ではなく、単なる通過点に過ぎません。ボクシングで例えればやっと 1 ラウンド終わった所ですね。ですから、これから先まだ、2 ラウンド、3 ラウンドが残っているわけで、それを勝ち取るためにもそれなりの努力が必要なわけですね。そんな事を考えれば、勉強勉強となりがちですが、時には私のように休憩することも大切だと思っています。(ただ、私の場合いろんな方に迷惑をかけましたが ^^; 苦笑) 今、新しい職場に夢と期待を胸に膨らませています。人生は限りなき挑戦です。将来、夢を語るだけの男にはならないよう努力していきたいと考えております。最後になりますが、今までお世話になった先生方および父母に心から感謝致します。

5 学年
花城 康仁

「機械系の職業に早く就職したくて高専に入学したけど、これから 5 年間本当に大丈夫だろうか…」と入学式に考えていたのを今でも覚えています。しかし、高専生活は毎日楽しく、あっという間に 5 年間の高専生活ももう卒業目前となっていました。高専祭や体育祭、研修旅行、5 年間の寮生活、とたくさんの思い出や、時には友人同士で衝突することもありましたが、もう少し 7 期機械科のみんなで過ごしたかったという気持ちがあります。

私の高専生活で一番の思い出は、5 年生の夏休みに石垣島、宮古島で行われたわくわくチャレンジ実験教室にお手伝いとして参加させて頂いたことです。私の卒業研究で使用しているロボットを使用して目的などの説明を行ったり、参加していただいた人たちに実際に操縦してもらったりしました。ロボットの本来の目的とは違いますが、来ていただいた人に喜んでもらえたのはとてもうれしいものでした。

また、私は 5 年間寮生活をしてきましたが、それも充実して楽しいものでした。1、2 年生時は全寮制で同学年の友人は全員いるので、放課後などは集まって遊びとても楽しい毎日でした。勉強面においても、試験や課題、レポートなどでわからないことがあればすぐに聞きに行くことができ、みんなで助け合い、頑張ることができました。3 年生以降は指導寮生という寮生活にかかわる仕事をやらせていただきながら、充実した日々を過ごすことができました。

卒業後は皆進路が違いますが、またみんなで集まって思い出話ができることを楽しみにしております。5 年間お世話になった教職員の方々にとっても感謝しております。本当にありがとうございました。

5 学年
勝連 盛裕

愛する、あけなを離れ早 5 年。今振り返れば本当に色々な思い出がありました。寮生活では学習時間帯に大声でワールドカップの応援をして先生に盛大に怒られたり(パイティガ先生だけは怒らなかった笑)、友達の部屋に大量の発泡スチロールを撒き散らして友達ガチで怒ったり(吉田睦)、ドッキリを仕掛けたら先生にバレて友達が謹慎を受け(伊波唯若)、一緒に残るつもりだった寮を 2 年で出されたり(自分)…。

学校生活では、クラスが一致団結して 3 年連続、体育祭も高専祭も学年優勝できた。高専祭の映像撮影では、網谷先生の授業中にいきなり「アナと雪の女王」を合唱して(お蔵入り映像)、後で学科の先生に本気で怒られたりした。

1 番頑張ったのは部活動で、現役の時も高専大会前もキャプテンをやって、頼りないキャプテンだったけど、同期のメンバーや後輩、女ハンのみんなに支えられて 5 年間ハンドをしました。あんまり泣くキャラじゃないけど最後のミーティングで後輩が泣いてくれて完全にもらい泣きしたあの思い出は一生の宝物です。心から女ハンやコーチ、顧問の先生方を含めたハンドボール部の仲間たちに感謝しています。

他にも、宿も決めずに 10 日ぐらい日本旅したり、勝手に友達の分までチケット買って他の高専に潜入して友達作りに行ったり、振りかえってみるとアホだなーと思います笑。でも先生たちはそんな自分をちゃんと見捨てず面倒見てくれました笑。そんな私も、もうすぐこの学校を卒業します。不思議と寂しさはなく、早く新しいステージに進みたい気持ちでいっぱいです。この学校で学んだ、知識、礼儀、人間性、感謝する気持ちなど、この小さな島で得た、大きな財産を思う存分社会で発揮したいと思います。5 年間自分を支えてくれた友達、家族、先生方、本当に 5 年間ありがとうございました。

5 学年
池原 洋

思えば、入学から卒業までの道のりは興味に突っ走った 5 年間でした。

成績ももちろん大事ですが、それが全てではないと僕は考えました。

せっかく宝の山が目前にあるのだから使わずに居るのは勿体無いと、2 年生の中頃から学校から借りたパソコンやマイコン、センサーなど興味の赴くままに何かしら弄っていたような記憶があります。

この興味から得た知識が授業に直接関わることはあまりありませんでしたが、卒業研究はそれらの知識を交えることで学生生活の集大成とも言えるものとなりました。

興味を持って学ぶことは、今や近い将来では役に立たないようなことでも、いずれ結果が着いてくるはずですよ。

学生のうちは時間が沢山あるのですから、この高専という環境を活かして学業だけでなく興味のあることに全力を注いでみてよいのではないのでしょうか。

さいごに、後輩には「あるものを活かす」と「興味を大事にする」このふたつを伝えてこの学校を卒業したいと思います。

5 学年
友利 萌

私たちが入学したのは沖縄高専ができて7年目の春で、本科と専攻科の全7学年が揃った年でもありました。中学1年の時からずっと目指してきた場所に、いまこの足で立っている！ そんな喜びと緊張感で胸をいっぱいにして入学式を迎えたのを覚えています。

5年間は、自分でも驚くほど目まぐるしく過ぎていきました。いつもの授業や寮生活のほかに、学生会執行委員や高専祭実行委員に参加し、毎日がより充実しはじめました。寮では指導寮生を務め、一般寮生と指導寮生双方の考え方を学びました。進路活動がはじまると、インターンシップでは社会人と学生の違いを実感し、就職活動では自分自身を改めて知ること、自分自身の将来のことをきちんと考えるようになりました。その中で、7期メディアのみんなと過ごした日々は、一日一日の密度が高くて、幸せなものでした。4学科で唯一関西へ向かい大阪と京都を巡った研修旅行、伝統や慣例にとらわれず「7期メディアらしさ」をもって臨んだ高専祭、そして笑いの絶えない毎日、すべてが素敵な思い出です。色々なことがありましたが、最後の青春をこの仲間たちと過ごせたことを誇りに思います。

時には、授業についていけず嫌になったことも、周囲との実力の差を実感し「向いていないんじゃないか」と悩んだこともありましたが、それでも、こうして5年を終えることができたのは、友人や後輩や先輩、先生方、家族の支えがあったからだと感じています。この春から、社会人としてのスタートを切ることになりました。「学校」の外に出て慣れない場所でやっていくことに不安もありますが、沖縄高専で培った技術と知識を活かし、自信をもって前進していきたいです。

5 学年
照屋 大地

私が沖縄高専に入学してから5年、あっという間に経ってしまいました。一年生の頃、今私が所属している研究室の教授にプログラミングの部活動に誘われてから、5年間たっぴり部活動に打ち込みました。低学年では競技プログラミング、高学年ではシステム開発コンテストと、「プログラマーになる！」と意気込んでいた入学当初でも全く想像つかないほどプログラムを書いた気がします。毎年高専祭の季節は開発コンテストの季節でもあり目が回るほど忙しくて高専祭の思い出が消えてしまったり、三年生の研修旅行も開発の忙しい時期で思い出がどこかに行ってしまったりとちょっと残念なところもありますが、とはいえ授業で行う開発演習などではクラスメートと協力して楽しいものを沢山生み出すことができました。このとき沢山のスキルが身についていたことを実感して、とても良い経験であったと感じました。

クラスのみんなとの出会いもとても良いものでした。7期メディア生は個人個人のポテンシャルがとても高く、個性の強いメンバーが揃っていました。特に最後の高専祭で制作した映像作品においては映像撮影部隊、俳優・声優、CGクリエイター、アニメーター、マネージャーなど個々が持つ強みを活かしたチームワークで他のクラスには決して真似

のできない作品を作り上げることができました。これから離れ離れになってしまいますが、このつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。

この5年間で私はとても活動的になり、挑戦する楽しさを発見することができました。クラスメートのみんな、先生方、出会った人たちに感謝しながら、これからの新しい生活でもまた次の挑戦に取り組んでいきます。5年間ありがとうございました！

5 学年
宮川 慧

東京の実家を離れ、沖縄で学び、暮らすこと早5年。思い返せば、楽しかったこと7割、胃が痛くなったようなこと3割、といった感じです。日々の課題、PBL、進学対策、卒研。忙しい日々でした。しかしその中でも、上手に時間を管理する友達がいり、勉強を教えてくれたりと、忙しいからこそ、お互いに学べることも沢山あり、助け合いながら成長できました。大変でしたが、今となっては良い思い出です。あ、今ちょっとカッコいいことを言いました。

一方で、楽しい思い出はというと、これも数えきれないほど多くあります。離島への釣り遠征、ボーイズトーク、カラオケ大会、等々。今でも鮮明に思い出せます。この文を書き終えた後も、卒業旅行・パーティー等、楽しみな予定がたくさん入っています。楽しんで、また寝不足になってしまいますね。

このように、今まで色々なことがありましたが、その中で、お世話になった方が沢山います。まずは先生方です。へこたれやすい私をいつも励まし、鍛えてくださいました。素敵な先生方に巡り会えた私達は幸せ者です。また、先輩方には、入学当初から今まで、何度も助けていただきました。私達が笑顔で卒業できるのは先輩方のおかげです。そして仲間たち、後輩へ。体育祭で MVP をとれたのも、暗い状況から立ち直れたのも、みんなが私にスポットライトを当て

てくれて、時に、本気で心配してくれたのおかげです。寮指導員の方々、保健室の先生方、レストランのおばさま（もとい、お姉様）方… 今まで沢山の方々にご心配をおかけし、支えていただきました。本当にありがとうございました。最後に両親へ。甘えてばかりでごめん。ずっと支えてくれてありがとう。長生きしてください。

春からは北海道で、酪農家になる夢に向かって新たに歩き出します。それぞれ、新しい環境で頑張りましょう。高専にもまた、必ず顔を出します。きっとまた、イチャビラヤーサイ！

5 学年
島袋 友美

沖縄高専での生活に対して、私は入学当時、それほど期待を抱いてはいませんでした。特に目的もなく、親に勧められるが儘に推薦入試を受験したところ受かってしまったためです。それまで何事にも興味を持つことが出来なかった、非常に無関心な私は、高専でも徒に時を過ごすことを予測していました。しかし、高専で過ごした5年間の生活は、私の予測を少しも掠ることもないほど面白く、忘れがたいものとなっていました。

もともと文系志向だった私にとって、高専に入ってから体験は、まるで異世界のような体験の連続でした。低学年の頃は、慣れない理系科目に対して地団駄を踏む日々を送っていましたが、3年生の時には創造研究での成果を外部に発表する機会を得ることが出来ました。4年生の時には、サンフランシスコへのインターンシップを経験し、海外で仕事をし暮らすことの面白さの一端を知りました。5年生の卒業研究では、以前より憧れていた iPS 細胞を作製する経験もすることが出来ました。

最終学年の5年生は、怒涛のように過ぎて行きました。卒業研究のために休日登校したり、実験を習うために本土に行ったり、高専祭の後夜祭において友達とダンスを披露したり、卒業論文作製に動しんだり、進路選択に頭を悩ませたりしました。それでも、毎日の昼休みに友達と他愛のない会話をすることが、楽しみであり癒しでした。また、私は5年間を学生寮で暮らしたため、寮における友達も大切な存在でした。

蛇足のような話ですが、私は恋愛面において面白みのある経験はしませんでした。つまり、俗に言うような甘酸っぱい青春なるものの意味を解することは有りませんでした。ですが、そこには一抹の後悔も有りません。何故なら私の周りには、多種多様に面白いことを言って笑わせてくれる友人達や、学びを教えるのみならず相談にも親身に対応して下さる先生方、そして常に支えてくれる両親が居ました。皆が私に、並のそれではなく、超弩級の青春をくれました。感謝の限りです。

高専で学んだことを無駄にしないように、一挙手一投足の労も惜しまず、今後も努力したく存じます。必ずや、私は夢を叶えます。

1 学年主任

この原稿を書いているのは後学期末試験終了の翌日で、昨年四月の入学式から始まった一年生としての一年間が終わろうとしています。数日前には入学試験(学力検査による選抜)が行われ、今日はその合格発表をしています。間もなく後輩たちが入学してきます。今の一年生も、一年前には合格を喜び本校での勉学に励むことを誓う受験生であったはずですが、さて実際、この一年間で自分は何のくらいのことを学び成長したか、自分が後輩を指導する先輩としてふさわしいか、ということを含めて問い直してほしいと思います。

「高専だより 17 号」に書いた通り、今年度の一年生は、他の学年に比べれば遅刻や欠課が少なく、生活態度がきちんとしている学生が多いと言えます。しかし、残念ながら一部には、理由のはっきりしない欠課が目立つ学生や、授業中の居眠りが常態化している学生もいるようになりました。さらに驚かされるのは、試験時間中に居眠りをする学生、あるいは返却された試験の答案をそのままゴミ箱に捨てる学生までいることです。「試験で点数さえ取れば、それでいい」という考えを露骨に態度で表した、学ぶ姿勢に欠けた学生の存在が、いずれ本校の屋台骨を揺るがすのではないかと危惧しています。なぜなら、学生の素直さ・性格の良さが本校の数少ない長所の一つであると考えからず。

そのような学生には特に注意を払って面談や助言をしていきますが、ご家庭におかれましても注意いただければと思います。また、成績や学習態度について、お聞きになりたいことがございましたら、いつでも学級担任や学科担任にご相談ください。

今後とも、保護者の皆さま方のご支援とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

第一学年主任 森田 正亮

2 学年主任

11 月に一大イベントである高専祭が行われました。後期に入ると連日クラスで一致団結して準備をし、無事終了することができました。普段の学校生活では見られないお互いの姿をみて、チームとして協力しながら何かを作り上げていくという経験をするることにより、授業とは一味違った学びを体験できたかと思います。

また、後期にはキャリア関連のイベントが 2 回行われました。1 回目は、全国中小企業団体中央会、地域中小企業の人材確保・定着支援事業「ハイスайプロジェクト」より講師の方をお招きし、「会社を見る眼セミナー」と題してご講演をいただきました。長年企業で人事に携わってこられた方から、どのような人材が求められているのかなど就職活動と仕事についての貴重なお話を聴き、大いに刺激を受けたようでした。2 回目はクラスごとに別々の講師の方々にセミナーをご担当いただき、より具体的なお話を聴くことができました。また、実際に会社に入った際に訓練されることになるであろう、お客様に対する挨拶の仕方なども練習しました。社会に出るのはまだまだ先と考えている学生も多いかもしれませんが、企業見学やインターンシップはそれほど先のことではありません。普段からきちんとした挨拶が習慣化されることを期待します。

残念ながら、いまだに一部の学生に遅刻や欠課などの生活の乱れや、それに起因する成績不振がみられます。混合学級も終わり、来年度からは学科別のクラスになり、勉強もより難しくなっていきます。目標を設定し、一日一日を有意義に過ごしてもらいたいと思います。今後とも皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第2学年主任 名嘉山 リサ



3 学年主任
バイティガ ザカリ

第3学年は学科別の学級が始まる学年であり、これから卒業まで同じ仲間と学校生活を送ることになります。また学業外では、1～5年生までの全学年のまとめ役としてリーダーシップを発揮しました。前期の4月29日(日)に行われた体育祭では、3学年は計画、準備にわたりみんなで協力して取り組み、当日も全ての競技において全学年をリードして見事に成功させました。一人一人の満足した素晴らしい笑顔を見ることが出来たことは主任として誇らしく、学生の持っている力にこれからの大きな期待を持ちました。後学期は高専際の準備からはじまりました。機械システム工学科は映像作品をし、情報通信システム工学科と生物資源工学科は、合同で「縁日」を開いてアヒルすくいや輪投げなどの様々なアトラクションを製作し、来場した子どもたちで大盛り上がりでした。メディア情報工学科は、土地売買ゲームなどの自作ゲーム10種類のゲームを作り、来場した大人から子どもまで大いに魅了しました。準備期間が短く苦労も多かったようですが、多くの学生が当日のみならず、意気込んで企画や準備にあたり楽しんでいました。苦労も含めて高専祭が今後の良い思い出となり、学生生活を共に過ごすクラスメイトとの友情をさらに深めることができていると願っています。

高専祭の余韻も冷めないうちに次は研修旅行の準備です。クラスの友達との初めての県(国)外の研修旅行に学生は大張り切りです。研修旅行には自主研修日があるため、研修したい場所を検索するインターネットを操作する手にも気合が入っていました。今年度は12月3日～6日までの3泊4日間で機械システム工学科・メディア情報工学科・生物資源工学科の3学科が東京へ、情報通信システム工学科は台湾へ出発しました！

普段は授業やテストなど少なからず「受け身」的である学生が、体育祭をはじめ、高専祭や研修旅行を通して仲間と力を合わせて自ら計画・準備し、そして実施を通して経験したことは、学校生活のみならず、今後の人生のかけがえのないものになると確信します。



体育祭開会式の様子



高専祭本部の様子

4 学年主任
田中 博

「来て、見て、聞いて、開こう、世界への扉！」というグローバルキャリア講演会の企画・実施に携わっています。年に3～4回、国内外のグローバルリーダーが来校して本校学生に「自分の話」をしていただきます。これまでに、単身パリに渡り起業した女性経営者、世界一周に挑戦しているヨットマン、食品企業出身の北海道大学教授、オランダのグローバル乳業メーカーに勤める研究開発リーダー、南極海を航海した水族館の飼育展示責任者、がんの転移を漢方薬で抑えようとしている薬剤師をはじめ、多種多様な皆さんに協力していただきました。そして、グローバルリーダーたちの話に度々、繰り返し登場する「キーワード」を見つけました。どんな言葉だと思いますか？

「自分の頭で考える」：すべてのリーダーが「自分の頭で考える」ことの重要性を指摘します。リーダーたちは、まさに「自分の頭で考える」ことによって、勇気と自信と責任をもって新しいことに挑戦します。そこから新しい価値が生まれることを経験しているので、「自分の頭で考える」ことを大切に、実践します。

「がむしゃらにやってみる」：自分(たち)で考えて決めたら、とにかくがむしゃらにやってみる。中途半端な終わり方は絶対にしない。失敗したら止めればよい。いや、失敗するから成功に近づくことができる。やってみなければ成功も失敗もない。リーダーのアクションは、自分(たち)で考えて決めたら、とにかく速いのです。

「出会い・巡り会い」：リーダーたちは口をそろえてこう言います。「自分(たち)で考えたことをがむしゃらにやっていると、訳もなく新しい出会いが向こうからやって来る」と。一生懸命取り組んでいる姿は是非もなく美しく、人々の心を打ちます。そこに新しい「巡り会い」が生まれるのだと思います。新しい「巡り会い」は、また次の「出会い」を生み、リーダーの世界は「互いに魅せられた人」を介してどんどん広がります。

この3つの「キーワード」は、年齢に関わらず、経験に関わらず、立場に関わらず、もちろん沖縄高専の学生ひとり1人が理解できる、単純明快な「キーワード」です。あとは実践！本科4年生の諸君には、今後の就職活動や編入試験の中で「自分で考え」、「がむしゃらにやって」、「新しい出会い・巡り会い」をつかんで欲しい。このプロセスを経験することで自分の世界がぐぐっと広がり、その中で経験したことや出会った人たちとともに自分の「土台」になるはずですよ。





新城 満里奈

私は沖縄県が主催している「海外短期インターンシップ」という事業に参加し、シンガポールで一週間の研修を行いました。この事業は沖縄県の若者を対象としたグローバル事業の一貫で、働くという視点から海外をみることができます。私がこの事業に応募したのは、将来建築関係の職に就きたいと考えているので、クラスメイトが行くような機械系の企業に興味が高かったことと、以前から海外で働くことを将来の目標としていたので学生のうちに少しでも経験を積みたかったことが理由です。この事業では現地研修前の約二ヶ月間、週一で事前研修が行われ、ビジネスマナー講習やプレゼンの作成発表、レポートなどの課題が出されます。その後、現地での研修を行い、その成果を事後研修で発表という流れでした。事前研修は学校の課題やPBLとの両立、毎週琉大へ行かなければならないので大変でしたが、他大学の異分野を学んでいる学生との交流は新鮮で良い刺激になり、とても楽しかったです。シンガポールでの現地研修は日系企業への訪問や県人会への参加、南洋理工大学での学生交流を行いました。訪問したのはモバイルマーケティングやイベントの企画運営、観光業などを行っている企業で、工学を学んでいる私にとってとても新鮮であり、職の視野が広がりました。県人会ではシンガポールで働いている沖縄県出身の方々に海外で働くことについてお話を伺うことができ、インターネットにある情報だけでは読み取ることのできない生の体験談はとても刺激的でした。また、私が一番刺激を受けたのが南洋理工大学での学生交流です。参加した学生は皆、外国人と話しているのが分からなくなるほど日本語が流暢で、将来へのビジョンも明確に持っていました。実際に講堂での授業も聴講し、すべて英語で行われている講義や学生の学びに対する貪欲さが魅力的でした。

私は一週間しかシンガポールにいなかったのに、このインターンを通してなにが劇的な変化（英語を話せるようになったとか）があったかと言われると特にありませんが、意識的な面ではとても成長したと思います。興味半分で参加したインターシップでしたが、日常を脱して非日常に身を置くだけで、これほど学んだり感じたり自信につながることを経験出来るとは思っていませんでした。もし進路に悩んだり、将来やりたい事が見つからなかった人は、この海外インターンで自分の視野を広げてみるのもいいかもしれません。



上原 理緒奈

私は、8月下旬にニフティ株式会社（東京）で5日間お世話になりました。インターンシップに参加するにあたって、沖縄高専では「学校推薦」と「自由応募」があります。今回私が受けた会社は「自由応募」であったため、履歴書を書くのに奮起しました。参加できると連絡が来たときは、とても嬉しかったです。

研修内容は、クラウドを使った、アプリ企画開発をチーム（1チーム：3、4人）で行うというものでした。5日間という短期間で完成させるために、作る機能の優先順位というものは最も重要なことです。チーム内で優先順位の位置付けをしっかりと話し合うことが重要だと感じました。また、「誰がいま、どのタスクをやっているのか」開発状況は、常にチーム内で共有できるように、見える化する重要性についても、この5日間を通して実感しました。その他の研修内容として、講演会が社内外から合わせて3つあり、社内見学（15分程度）、懇親会（初日と最終日）がありました。

今回参加することで、多様な個性を持つ社員の方々からお話を伺うことができたことは、来年度、就職活動をする私にとって大変意義深いものになりました。これからインターンシップに参加する学生は、「自分が本当にこの会社にあっているのか」というところに焦点を当て、これからの進路に活かしてほしいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中参加を受け入れてくださった企業の方々と先生方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



玉代勢 隆平

「何事もフルスイングで」「表現しないのは存在しないのと同じ」

この2つは、インターンシップを通して、私が衝撃を受けた言葉です。

私は、静岡県にある旭化成ファーマの安全性・動態研究部で5日間のインターンシップを体験しました。インターンシップ中は勤務地に近い社員寮に宿泊しました。寮の中で社員の方と顔を合わせる機会が多いので、たくさんのお話をすることができ、非常に良い環境でした。インターンシップの内容は実験が主で、新規化合物の安全性や、化合物の体内運命を研究する基礎を学ぶことができました。そこでは、日頃の授業や創造研究で身につけた技術を活かすことができ、実験効率の向上やデータを詳細に残すことの重要性を実感することができました。しかしそういった技術的な面よりも、様々な社員の方とお話をしてはじめて得ることのできる「気持ちの面」でのアドバイスが一番印象に残っています。

「何事もフルスイングで」というのは、入社1年目の社員の方に言われた言葉です。

人事の方は今までたくさんの学生を見てきている。しかし、その就活中の学生の中で就活に全力で臨んでいる人はごくわずか。それは経験が少ないから。何事にも全力で取り組んで、他人にその経験を語れるくらいでないと人事の方に

印象を与えることはできない。その経験の一つがこのインターンシップなんだよ。と言われました。今まで私は学業や創造研究に全力で取り組んできたつもりでしたが、それを他人に語れるかと言われると少し考えてしまいます。このインターンシップを通して、すべてのことに全力を注ぎ込むことの大切さを学びました。

そして「表現しないのは存在しないのと同じ」というのも社員の方に言われた言葉です。

企業はそれぞれの分野にその分野のエキスパートがいて、分野ごとに連携し合っている。

そこで自分が何をやっているのか表現しなければ、存在をアピールしなければ誰にも認めてもらえない。それは学生でも同じ。

この言葉を受けて、自分をアピールするためには何か一つ武器を持たなければならないと感じました。

5日間のインターンシップを通して、自分に必要なものは何か、今やるべきことは何かを明確にすることができました。今後の学生生活もしっかりと、全力で、仲間と切磋琢磨しながら励みたいと思います。



山下 哲平

僕は矢崎総業にインターンシップでお世話になりました。車の神経となるワイヤーハーネスという部品について学習し、自分達で部品の設計からハーネスの組み立てまでの経験、工場の見学や矢崎総業が開発した部品やメーター機器等の見学もさせて頂きました。車に興味があったり、車について学びたい人にぴったりな企業だと思います。

実際に企業に行って職を経験したことで、お客様の大切さについて深く学びました。

研修中に矢崎総業の社員の方から「ものづくりの原点は現場にあり、自分達企業が開発する現場も、そしてお客様が使用してくださる現場、全ての現場のことを想定してものづくりは成り立つ。だから我々も部品を開発する際にはお客様がどうやって扱いやすいのか、どんな形の部品だと事故や怪我が起きにくいのか、それだけに気をつけて部品を設計開発している」というお話を聞いて、僕はとても感動しました。

僕もこの社員の方のように自分の仕事に誇りを持てるかっこいい大人になりたいと感じました。

仕事というものを初めて経験して社会人と学生の違いについても知ることが出来ました。

社会人は学生とは違い、全ての行動の責任が自分にあり、一つ一つのことに責任を持って行動しなければならないと知りました。



西原 希咲

私は、福井県鯖江市にある jig.jp にインターンシップに行きました。jig.jp はモバイルを中心としたソフトウェアの開発をしています。代表取締役社長の福野さんは福井高専生出身で新しい技術に目がなく、いつも Google Glass をかけているフランクで喋りやすい方です。

jig.jp のインターンシップは少し変わっていて、課題や、普段の事業を手伝うのではなく、【全国から集った 16 人の高専生がチームを組み 3 週間でアプリ開発をする！】というものです。3 週間のインターンシップで、アイデア出しから開発環境の構築、アプリ開発そしてアプリのプレゼンまでの工程をしました。この 3 週間インターン生は同じアパートでの共同生活もします。共同生活ということもあり 16 人全員がすぐ打ち解けあいました。やはり高専生ということもありギークで癖の強い人達が多かった印象です。

チーム開発は 4 人 1 組で行いました。メンバー構成はアプリプログラマー・サーバプログラマー・デザイナー・チームリーダーです。私はチームリーダーを担当しました。私以外のメンバーはチーム開発をしたことがない人達でした。インターンプログラムの中には講義のような形で開発のスタイルや、サーバの使い方等をおしえてくれ、チームごとに

メンターと呼ばれる開発についてのアドバイスをしてくれる社員の方がついてくれました。

わたしたちのチームは jig.jp がある鯖江市に特化した観光モバイルアプリを開発しました。アプリ名は「Photravel- 写真ではじめるおいしい旅-」です。このアプリは鯖江でご飯を食べる時にお店を探すためのものです。お店の選び方は 2 つあり飲食店のメニューの写真の中から食べたいものを選ぶ方法と、現在位置の近くからお店をさがすという方法です。この 2 つを実装するためには授業でなかったプログラミング技術だけでは足りず、自分たちで調べ新しいことを学びながら開発を進めていきました。

私がインターンで学んだことは学んだことは 2 つあります。

- ・実践的な業務に近い開発について
- ・チームリーダーの仕事の重要性

です。jig.jp ではアイデア出しから開発までの実践的な開発ができます。また社員の方との懇親会も多かったので実際にエンジニアとして現地で働いている人達の話やきく事ができました。そして、チームリーダーの力量で開発がスムーズに進むかがきまります。私はまだまだ力不足でした。インターンシップのお陰でチームリーダーとしての課題が見つかりました。

インターンシップは自分の将来の仕事を実際に体験でき、働いている人と話せる貴重な体験です。また、インターンシップをしている中で必ず次の目標を見つける事も大切です。ぜひ、後輩たちには真剣にインターンシップ先を検討することをオススメします。



内嶺 佑太

私はシンガポールでの英語キャンプに参加しました。3 年次の研修旅行でもシンガポールに行ったこともあり、海外への関心があったことが参加理由でした。

約二週間の英語キャンプでは、シンガポールの高等教育機関であるシンガポールポリテクニクに通い、全国から参加した高専生と共に授業を受けました。先生は日本語を一切喋れないシンガポール人の方で、授業は全て英語で行われました。授業は課外活動が多く、自分達で電車・バスに乗り、周囲の通行人に片言の英語で道を尋ねながら目的地まで辿り着き、課題である調べ学習のため施設の人に話を聞いてまわるなど、とにかく英語に触れ続ける実践的なものでした。授業後のグループでの自由行動では、有名な観光地だけでなく、ヒンドゥー教や仏教、イスラム教の寺院を訪れ、シンガポールの特徴である異なる文化・宗教が共存している様子を体感することができました。また、全国の高専生やシンガポールの学生と語り合い、仲良くなることもできました。宿泊先は、留学生が多く滞在している寮のようなところで、食事も毎食自由だったので、シンガポールでの二週間は旅行というよりも“生活”に近いものであり、普通の海外旅行では味わえない経験でした。

英語キャンプを通して、日本人を含め様々な国の人々がひとつの国に集まって仕事をしている様子を目にし、将来に対する視野が広がりました。また、英語でコミュニケーションをとって多くの経験を得られたことで英語が以前より好きになったと同時に、英語の勉強だけでなく、英語で何をするかということが大事だと感じました。最も印象に残っていることとして、貧困層が多いインドの北部からシンガポールへ留学してきた 21 歳の学生と滞在先で出会ったことが挙げられます。滞在先にはアジア諸国から留学してきた学生が多く、彼の話を聞いていて、日本でめくめくと生きてきた自分の与えられた環境に対する未熟さを感じ、良い刺激を受けました。シンガポールでの二週間には多くの学びがあり、とても楽しく、貴重な経験にすることができたと思います。

これからインターンシップを受ける皆さん、受け身ではなく自分から真剣に取り組む姿勢さえあれば、必ず行ってよかったと思えるインターンシップになると思います。頑張ってください。



Biligsai Khan.B

私は、去年の 8 月から 9 月にかけて花王株式会社の和歌山工場の品質保証部とモンゴル税関検査所にお世話になりました。

インターンシップ先を決める際に、日本とモンゴルの社会を両方とも体験してみたいと思ったため母国と日本にインターンシップを希望しました。

日本での研修先の花王株式会社は洗剤、化粧品、トナーなどの生産会社です。その中で、和歌山工場は主に洗剤の生産をしていました。私にとって、日本の会社に研修生として入ってみるのが初めてだったので、日本語の面で多少心配がありました。また、研修が始まる前は日本の社会は厳しく、会社内も固いイメージがありました。しかし、実際に入ってみたら職場の人々は暖かくて、高専卒の先輩たちも多く、非常に研修しやすい雰囲気でした。

研修内容は、和歌山工場で生産されている商品の品質検査やお客さんから受けた指摘の解析などをしました。基本的には毎日講義と実験でした。品質保証部には商品の検査をするための実験室や器具は十分にあり、今までさわったことのない高級な分析機器が多かったです。高専では、毎週実験しているため、ほとんど慣れてはいましたが、学校の授業

に比べて機器分析項目が多く、様々な新しい実験操作を学び、貴重な経験をする事ができました。

一方モンゴルでは、モンゴル税関検査所で 1 週間、研修をさせていただきました。モンゴルでの研修内容は海外からモンゴルに輸入されている飲料品や食品の検査をしました。モンゴルでの研修も、基本的には花王での研修と同じく、ほとんど実験でした。

今回のインターンシップで、短い期間ではありましたが、当初の目的だった日本社会とモンゴル社会をそれぞれ体験し、自分なりに比較することができました。また、日本での研修は私にとって良いチャレンジとなり、自分の強さと弱さに気付けた体験だったと思います。このインターンシップを通して学んだことをこれからの学生生活で役立てていきたいと思っています。

【平成27年3月卒業予定者の進路状況】

沖縄高専では、平成27年3月に143名が卒業する予定で、うち56名が進学、87名が就職を希望しています。

就職・進学内定状況

平成27年2月末現在

	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	合 計
卒業予定者数	32	37	39	35	143
進学希望者数	13	15	14	14	56
合格者数	11	14	14	13	52
うち専攻科合格者数	3	6	2	7	18
うち3年次編入等合格者数	8	5	11	6	30
うち専門学校合格者数	0	3	1	0	4
進学決定率 (合格者数/進学希望者数)	84.6%	93.3%	100.0%	92.9%	92.9%
進学先※	長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学(6) 琉球大学	豊橋技術科学大学 千葉大学 筑波大学 琉球大学(2) 【その他】 海外語学学校(2) 建築系専門学校	九州工業大学 長岡技術科学大学(2) 東京農工大学 電気通信大学 信州大学 筑波大学 琉球大学(4) 【その他】 ヒューマンアカデミー那覇校	東京工業大学 香川大学 帯広畜産大学 筑波大学 高知大学 沖縄大学	
就職希望者数	19	22	25	21	87
内定者数	19	22	22	21	84
内定率 (内定者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	88.0%	100.0%	96.6%
内定先企業名※ (県内) 県内に本社がある企業	株式会社ベアック沖縄 極東建設株式会社 沖縄東芝メディカル株式会社 タイガー産業株式会社	沖縄電力株式会社 サン電通エンジニアリング株式会社 アブリカラボ	株式会社ビーンズラボ 株式会社ODNソリューション 株式会社国際システム	沖縄コカ・コーラボトリング株式会社 瑞穂酒造株式会社 株式会社ぐしけん(3) 沖縄ハム総合食品株式会社 比嘉酒造 株式会社お菓子のボルシェ 沖縄明治乳業株式会社 もとぶウェルネス	
	計 4 名 内定者に占める割合 21%	計 3 名 内定者に占める割合 14%	計 3 名 内定者に占める割合 14%	計 10 名 内定者に占める割合 48%	計 20 名 内定者に占める割合 24%
内定先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業	山九株式会社 株式会社明電舎 出光興産株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 東京ガス株式会社 ダイキン工業株式会社 大阪ガス株式会社 三菱日立パワーシステムズ株式会社 ムラテックCCS株式会社 株式会社アヤボ 株式会社日立ビルシステム 日本オーチス・エレベータ株式会社 日立建機株式会社 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター サンテクノ株式会社	ムラテックCCS株式会社 大阪ガス株式会社 NECネットエスアイ・ エンジニアリング株式会社 中部電力株式会社 サンテクノ NTTフィールドテクノ株式会社 エヌアイシー・ソフト株式会社 旭化成株式会社 アイフォーコム株式会社 株式会社NTTファシリティーズ 株式会社ベアック 株式会社日立ハイシステム 21 ソーバル株式会社 新日鐵住金株式会社 パナソニックエクセル テクノロジ株式会社 株式会社東芝 矢崎総業株式会社 日本電産株式会社 株式会社フォーラムエンジニアリング	株式会社日立情報通信エンジニアリング 株式会社ドリーム・アーツ 株式会社エヌ・ティ・ティ・ビー・ シーコミュニケーションズ NTTコムテクノロジ株式会社 株式会社リンク・アットジャパン 株式会社富士通ミッションクリティカル システムズ(2) ニフティ株式会社 株式会社トヨタ コミュニケーションシステム 株式会社NS・コンピュータサービス 株式会社NHKメディアテクノロジ アイフォーコム株式会社 株式会社日立ハイシステム 21 大阪ガス株式会社 株式会社コロビト サントリープロダクツ株式会社 株式会社ラソナ エヌアイシー・ソフト株式会社 株式会社デザインネットワーク	旭化成株式会社 第一三共プロファーマ(2) 東レ株式会社 資生堂株式会社 三洋化成工業株式会社(2) 花王株式会社 株式会社 東洋新薬 サントリープロダクツ株式会社 株式会社ジーユー	
	計 15 名 内定者に占める割合 79%	計 19 名 内定者に占める割合 86%	計 19 名 内定者に占める割合 86%	計 11 名 内定者に占める割合 52%	計 64 名 内定者に占める割合 76%

※同一企業に複数名の学生が内々定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

○専攻科

【平成27年3月修了予定者の進路状況】

沖縄高専では、平成27年3月に専攻科34名が修了する予定で、うち11名が進学、23名が就職を希望しています。各コース毎の進路決定状況は、下記のとおりです。

就職・進学内定状況

平成27年2月末現在

	機械システム工学 コース	電子通信システム工学 コース	情報工学 コース	生物資源工学 コース	合 計
修了予定者数	8	8	8	10	34
進学希望者数	3	2	2	4	11
合格者数	2	2	2	4	10
うち大学院等進学予定者	2	2	2	4	10
進学決定率 (合格者数/進学希望者数)	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	90.9%
進学先※	筑波大学大学院 長岡技術科学大学 大学院	九州大学大学院 豊橋技術科学大学 大学院	九州工業大学大学院 奈良先端科学技術 大学院大学	東京工業大学大学院 北海道大学大学院 九州大学大学院 神戸大学大学院	
就職希望者数	5	6	6	6	23
内定者数	5	6	5	6	22
内定率 (内定者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	83.3%	100.0%	95.7%
内定先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業	沖縄製粉株式会社 沖縄科学技術 大学院大学 株式会社那覇 データセンタ	沖縄電力株式会社 沖縄セルラー 電話株式会社 株式会社リウコム	株式会社琉球ネット ワークサービス		
	計 3 名 内定者に占める 割合 60%	計 3 名 内定者に占める 割合 50%	計 1 名 内定者に占める 割合 20%	計 0 名 内定者に占める 割合 0%	計 7 名 内定者に占める 割合 32%
内定先企業名※ (県外) 県外に本社のある企業	株式会社コマン 株式会社ダイハツビジネス サポートセンター	富士電機株式会社 CTCシステムマネジメント 株式会社 インターフェイス株式会社	株式会社西濃システムズ 株式会社サイバー エージェント 大阪ガス株式会社 富士ソフト株式会社	サントリー酒類株式会社 中外製薬株式会社 沢井製薬株式会社 旭化成株式会社(2) 株式会社アイ・エス・ ソリューション	
	計 2 名 内定者に占める 割合 40%	計 3 名 内定者に占める 割合 50%	計 4 名 内定者に占める 割合 80%	計 6 名 内定者に占める 割合 100%	計 15 名 内定者に占める 割合 68%

※同一企業に複数名の学生が内々定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

専攻科

修了生に贈る言葉



専攻科長
兼城 千波

専攻科5期生の皆さん、創造システム工学専攻の修了おめでとうございます。機械システム工学コース8名、電子通信システム工学コース8名、情報工学コース8名、生物資源工学コース10名、計34名の学生が、本

科を含めると7年間の学業を修め、沖縄高専を巣立っていきます。学位授与審査を受審した100%の学生が大学評価・学位授与機構から学士(工学)が授与されることになります。また、併せて、JABEEプログラムを修了した学生として認定を受けることになります。

7年間の高専生活の中で、クラブ活動や学習・研究活動を通して、人間力の育成や知識を深めてきたと思います。専攻科は、複合的・実践的かつ専門的カリキュラムを通じ、一貫した研究指導、PBL教育の積極的な導入、他学科との共同作業を実施し、複合的な専門性を備え、創造的実践的な課題解決型の技術者を育成することに努めています。特に、専攻科においては、特別研究の成果を対外発表することを必須としているため、様々な場面での議論の中で、新たな課題の発見や実験計画や手法の考案などエンジニアリングデザイン能力が少しでも身についたのではないのでしょうか?「問題点に着眼する」「解決策を探る」「計画を立て実行する」という一連の流れは、どんな分野に進んでも、就職しても、進学しても、大事な要素となります。沖縄高専で鍛錬され、培われたその“力”を、自分の選択した途でしっかり活かしてください。

これまでの22年間で、いろいろな人に支えられて、この修了式を迎えられているはずです。支えてくれた保護者、恩師、友人など周囲の人への感謝を忘れないでください。そして、これから出会う人たちを大事にして、これからの人生を明るく、楽しく、そして前向きに過ごしてください。

最後に、専攻科を修了する学生の進路は、本ページにも記載されておりますが、10名の学生が進学、22名の学生が就職となっています。(平成27年2月末現在)これまで学修したことを礎にして、新たな途での活躍を期待して、また、皆さんの人生のご多幸を祈念し、結びといたします。



2年
上里 優貴

私は人生の約1/3を沖縄高専で過ごし、学生会やロボット製作委員会、研究などを通して多くの仲間と出会いました。人間関係のトラブルも生じましたが、同じ時を過ごした仲間は一生ものの宝物です。

本科5年生から専攻科修了までの3年間に渡って行った研究は、複数の学会で発表する機会がありました。どの学会に対しても、研究内容の要旨や発表資料を用意することに多くの時間を費やしましたが、学会当日になってみると他の人のレベルの高さに圧倒されていました。しかし、同分野だけでなく異分野の方々の話を聞くことで視野は広がり、研究者としての姿勢を見習う良い機会となりました。

専攻科では課題や研究など、常に何かに追われていると感じるくらい私には辛かった時期がありました。先生に怒られる夢を何度も見て眠ることや学校へ行くことが怖くなったり、自分の無力さに嫌気が差して一人で泣いたりと周囲に心配をかけてしまいましたが、今となっては私が成長するために必要な過程だったのだと感じます。私が壁にぶつかり挫折したときには、手を差し伸べてくれる友達や家族、そして先生方がいて、大変恵まれた環境でした。これから卒業して新しい環境へと踏み出すことに不安を感じますが、沖縄高専で培ってきた様々なことを胸に、向上心を忘れずに努力していこうと思います。

最後に…7年間大変お世話になりました。私を成長させてくれた出来事や沢山の方々に感謝申し上げます。



2年
内間 大輔

沖縄高専で過ごした7年間(本科5年+専攻科2年)の中で、専攻科の2年間は私が人として大きく成長したと感じています。本科時代は、学業以外のことに積極的に参加するタイプではなかったため、地味な学生生活を送っていました(笑)。しかし、専攻科に進学してからは苦悩や初めての経験がたくさんあり、活発な学生生活を送りました。特に専攻科で印象に残っているのは、学会参加と国際交流です。

専攻科では学外での研究発表が必須となっているため、私もいくつか研究発表をしました。特に、初めて九州の学会に参加したときは、先生に何度も叱られ、泣きながら添削と練習を繰り返し、なんとか発表をすることが出来ました(笑)。国際交流は、専攻科1年に長野、専攻科2年の時には台湾でアジアの学生と交流をしました。長野での国際交流はただ参加しただけという感じでしたが、台湾では英語のプレゼンテーションを行い、初めての海外ということもあって、日本語の通じない環境がとても刺激的でした!(8割くらいは旅行気分でした^^)また、国際交流ではアジアの学生だけでなく、他高専の学生とも仲良くなり、高専トークは盛り上がりました(笑)。

本科時代は本当に地味で何もしてこなかった自分が、“高専だより”に記事を書くななんて想像したこともありませんでした(笑)。しかし、色々なことに挑戦していくなかで、積極性や自主性を養えたと感じています。これは自分の力だけでなく、周りの環境や先生方、同級生が居たおかげで出来たことだと思います。専攻科は大変な事のほうが“圧倒的”に多かったですが、本科も含めて7年間お世話になりました。ありがとうございました!!



2年
宮城 龍亮

高専本科から専攻科修了までの7年間を沖縄高専で過ごしました。長いようで短いと思ったけど、やっぱり長い7年間でした。『専攻科修了にあたって』とのことなので、専攻科で過ごした2年間について振り返ってみたいと思います。

この2年間は周りに恵まれた2年間でした。夜遅くまで作業に付き合ってくれたり、色々サポートし合えたりする仲間にも恵まれました。しょうもない冗談で笑い合えるみんなとの会話が大好きです。みんなが居たからこそ、2年間過ごせたと断言できます。面と向かって伝えようと調子に乗られて色々面倒なので、この場を借りて感謝したいと思います。また、ユニークな先輩や後輩、留学生との出会いがありました。彼らの考えや経験に多くの刺激を受け、モチベーションを向上させ、維持することが出来ました。先生方からは技術や知識だけでなく、研究や人生について重要なことを学びました。

当り障りのない内容になってしまいましたが、2年間とても楽しかったです。唯一の心残りはタイへの海外交流プログラムがたち消えてしまったことです。このために取得したパスポートを無駄にするのは悔しいので、近いうちに利用する機会を設けたいと思います。

最後になりますが、これまでお世話になった方々には足を向けて寝られません。新天地でも専攻科で得られたことを武器に足掻きたいと思います。そして、たまには僕のことを思い出して頂けると喜びます。本当にありがとうございました。



2年
佐事 武

5期生物の佐事武です!

入学当初、実験室で携帯を取り上げられていた僕が、5期生物の代表としてメッセージを残すことになるとは...なんとも言えない不思議な気分です(笑)

入学してから早7年、青春時代を過ごした沖縄高専から旅立つ日が近づいてきました。

振り返ってみると、沖縄高専で過ごした7年間はとても充実しており、あっという間に過ぎ去っていきました。

本科で過ごした5年間では、最高の仲間と陸上部を立ち上げ、個性的な5期生物のクラスメイトとバカなことをやったりと、楽しい日々を送りました。しかし専攻科に進学すると、“学位の取得”、“進路の選択”という大きな目標ができ、これまでの高専生活が一変しました。日々の課題やレポートに追われながら特別研究を行い、夜遅くまで院試に向けた勉強をしたことは一生忘れられない思い出になると思います。特に専攻科2年は課題やレポートが異常に多く、研究や院試の勉強が中々進まない時期もあり、何のために専攻科に進んだのかと悩んだこともありました。しかし、先生方からのアドバイス、同級生や後輩とのディスカッション、そしてたまに遊びに来てくださる先輩のおかげで乗り越えることができました。皆さまありがとうございました。

今年の4月から大学院生としての生活が始まります。人生とは簡単なものではなく、これからは様々な困難や大きな壁がいくつも立ちちはだかることだと思います。しかし、この沖縄高専で学んだ知識や経験を活かし、常に挑戦する気持ちを忘れずに、さらなる成長に向けて精進していきます。

それでは最後になりましたが、伊東先生をはじめ成長を見守ってくださった多くの先生方、7年間苦楽を共にした仲間、そしてたくさんの笑顔くれた後輩たちに感謝を述べて佐事武の挨拶とさせていただきます。



4年
新城 真里奈

今年度、高専祭実行委員長を務めさせて頂いた4年機械システム工学科の新城です。沖縄高専では去る11月8、9日の2日間で高専祭を開催しました。今年は高専祭10周年という節目の年であり、これまでにない高専祭を目標として新しいイベントに力を入れました。特に私達実行委員が例年との差別化を図るため変革の課題としていた点は、パンフレットやイベント、敷地内の芝生スペースを最大限活用することです。昨年度行われた九州地区高専の交流会で、他高専の高専祭から様々なアイデアを得ることができました。そこで特に感銘を受けたのが、パンフレットのクオリティの高さと、実行委員主催のイベントがとても多く、学生やお客さんと一緒に楽しめる場所が多かった点です。それを参考に今年度はパンフレットをカラーにし、タイムテーブルや出し物のアイコンを作成することで見ていだけでも楽しめるように工夫しました。また、激辛ルーレットなど学生参加型のイベントを新しく企画し、マンネリ化していたスタンプラリーのルールも新しくしました。さらに先輩方やクラス企画、学生会の協力もあり、プロレスやフリーマーケット、縁日など、芝生を最大限に利用することができました。限られた予算のなかで、実行委員として目指すクオリティを出すことがとても大変でしたが、学生の皆さんや協賛いただいたスポンサーの方々、先生方のご協力により高専祭を無事に作り上げることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。来年は後輩が今年よりさらに楽しい高専祭を作り上げてくれると思います。私は来年、委員などにもやらず、純粋に楽しむために高専祭に参加します。楽しみです。



高専祭スナップ



ロボット製作委員会

ロボット製作委員会 新里 智樹

2015年ロボット製作委員会部長の新里智樹です。僕たち委員会は毎年10、11月におこなわれるNHK主催の高専ロボコンに出場しています。競技は毎年変わり、去年は出前迅速と言って、そば(蒸籠)を出前先まで落とさずに多くの枚数を運ぶ速さを競うルールでした。結果はA・Bの2チームが出場し、九州・沖縄地区大会で両チームが20チーム中ベスト8に入りました。さらに、Aチームはアイデア賞を受賞し、2011年以来3年ぶりに全国大会に出場しました。全国大会には、歴代の沖縄高専ロボット製作委員会の先輩も応援に来て下さり、大変盛り上がりしました。

4月の末にルールが発表され、約半年間かけてロボットを作り上げます。その間自分たちで考えたものを実際にロボットにしていけるのはとても楽しく、何回も実験を繰り返し、改良し、想像していたもの実際に作り上げたときの達成感はとても気持ちいいです。

ロボット製作委員会は主に機械システム工学科の学生が入る部活と思われがちですが、実はそんなことはありません。実は僕も高専に入学するまではそう思っていました。しかし、入部するとそんなことはなくて、いろんな人の考えからアイデアを出してありました。現在、全学科の学生が入っており、情報通信システム工学科とメディア情報工学科の学生が回路やプログラムを作り、生物資源工学科の学生がロボットの設計やチームリーダーをしています。

去年、先輩方が3年ぶりの全国大会出場を成し遂げたので、先輩方に負けないように2015年も全国大会に出場し、そこで優勝できよう頑張るので応援よろしくお願いします



弓道部

弓道部 3年 メディア情報工学科 山城 広周

私は最初、アーチェリー部がないからという理由で弓道部に入部しました。1年生の頃の私には目標がなく、同級生や先輩と喋るのが楽しいからという理由で部活に参加していました。しかし、2年生になり後輩が入ってくると、自分が手本になれるのかという不安が大きくなっていきました。そこで私は、「全てにおいて自分が満足する射をしよう」という1つの目標を立てました。それからは、有段者の動画をネットで探して見てみたり、自分の射を動画に撮って見てみたりと自分なりに研究をし、少しずつ的中率をあげていきました。

そして、私は3年生になり、1、2年生とは違い、忙しくなっていくなかで時間を見つけては少しずつ練習をしていました。この頃には後輩に対してアドバイスができるようになっているなど、自分が手本になっているのではないかと自信が付き始めていました。

そして2014年7月に行われた九州沖縄地区高等専門学校弓道大会において男子個人において優勝することができました。しかし、全国大会ではそううまくは行かず、男子個人で7位という結果に終わってしまいましたが、初めて出場した高専大会独特の緊張感や空気を知ることができたので、来年度の高専大会ではさらに上位に入れるよう努力していきます。そして、卒業するまでに少しでも自分の満足できる射ができるよう日々自分の射の研究をしていきたいと思います。



ICT 委員会 2014 年度活動]

ICT 委員会委員長 西原 希咲

ICT委員会委員長の西原希咲です。ICT委員会とは放課後にあつまってプログラミングをし、大会に出場することが目的の部活です。

2014年度にICT部員が参加した大会とその成績を紹介します。

・2014パソコン甲子園

パソコン甲子園は全国の高校生以下が対象の大会です。部門はプログラミング部門とモバイル部門の2つがあります。ICT委員会からはモバイル部門に2チームが本選に参加し、グランプリとベストデザイン賞(2位相当)を獲得しました。

・第25回全国高専プログラミングコンテスト

この大会は通称プロコンとよばれる全国の高専生が参加する大会です。プロコンには自由部門、課題部門、競技部門の3つの部門があります。ICT委員会は3つのすべての部門で本選に出場しました。

ICT委員会は自由部門、課題部門で敢闘賞、競技部門で準優勝を獲得しました。

・第14回日本情報オリンピック(JOI)

JOIは日本の高校生以下の生徒を対象にプログラミング力を競う大会です。インターネットで1099人が参加した予選を通過し、ICT委員会から1年生と2年生の2人が東京で開催された本選に出場しました！

・第一回ビジネスモデル発見&発表会全国大会

全国からICTを利用したビジネスモデルやアイデアを募集して、事業や企業を応援・支援する仕組みを提供するイベントです。この大会に5年生の部員3人チームで本選に出場しました。

結果はキャンパス部門で最優秀特別賞・ICTビジネス研究会賞を獲得しました。

・起業家甲子園2014

全国から選抜された高専生や大学生、大学院生が、ICTを用いて開発したサービスのプレゼンし競う大会です。

この大会には、3年生と2年生と1年生の3人チームで出場し企業賞のMOVIDA賞を獲得しました。

・IT津梁まつり

IT津梁まつりとは、沖縄で開催されているイベントで、県民に対して県内のIT関連の産業に興味・関心をもってもらうためのものです。

ICT委員会からは、ETロボコン大会プライマリークラスで、敢闘賞を獲得しました。

これから、高専に入学したいと考えているみなさんには、入学したらぜひ様々な大会に参加してほしいです。授業では出会えない開発の楽しみやプログラミングのテクニックを学べます。それだけでなく、普段の学生生活だけでは得られない出会いや行けない環境があります。自分自身の専門の面と精神の成長になります！是非チャレンジしてください！



パソコン甲子園2014



第25回高専プロコン



起業家甲子園2014

全国高等専門学校体育大会への参加にあたって —水泳部—

情報通信システム工学科 2 学年 島袋 歩

去る2014年7月、九州・沖縄地区高専大会水泳競技が長崎県にて開催され、沖縄高専水泳部から12名が参加しました。その結果、男子800m自由形(島袋 歩)において3位となり、翌月に香川県で開催された全国高専体育大会に出場することが決まりました。

その他、男子100m背泳ぎ(宮里 龍太)が8位、男子200m自由形(島袋 歩)が8位、女子50mバタフライ(濱元 幸)が3位、女子100m自由形(濱元 幸)が3位、女子100m平泳ぎ(金城 優生・中野 貴稀)が3位・8位、女子200mリレー(濱元 幸・中里 李乃・中野 貴稀・金城 優生)が8位に入賞しました。

今年度は台風の影響で練習が思うように出来ず、非常にもどかしい思いをしました。

しかし、部員同士で協力し合い台風対策や台風後の片付けを早めに終えられ、また教員の方々が練習に協力して下さったため、練習時間の減少を食い止めることが出来ました。

水泳部は4年連続で全国大会への出場を決めています。私自身全国大会の出場は今回が初めてだったのですが、レベルの高い試合に参加できたことが自身の成長に繋がる良い経験になりました。

この様な経験が出来たのも、普段から私たちを支えて下さる顧問の教員の方々、また全国大会の出場に際して資金援助を行って下さった学生、教職員、後援会の皆様のおかげです。今一度厚く御礼を申し上げると共に、これから精進して参りますのでどうか水泳部を応援して頂けるようよろしくお願い致します。



第49回全国高等専門学校体育大会出場にあたってー女子バスケットボール部ー

平成26年8月30日、31日に高知県で開催された第49回全国高等学校体育大会バスケットボール競技に九州沖縄地区代表として、4年連続出場しました。1日目の第1回戦、対明石高専では、主力メンバーの怪我などにより苦戦となりましたが、結果55対35で勝利しました。バスケット初心者の1年生も出場し、チーム全員で戦うことのできた堂々の勝ち越しスタートとなりました。2日目の第2回戦、対八戸高専は3年連続準決勝で負けた因縁のライバル校でした。しかし、1日目のハブニングから試合に出場できたのは主力メンバー6名のうち5名と、全国大会準決勝でまさかのギリギリの状態でした。不安で一杯の試合でしたが、意外にも前半は1点差で勝ち越しでした。結果、後半は5名とも力尽き、28対56で負けてしまいました。しかし、結果こそついてこなかったものの、試合の内容としては、5名とも力を出し切れた満足のいくものでした。私が、女子バスケットボールに入って1番学んだことは、結果よりも、過程が大事であるということです。自身が上達するにはどうすればいいのか、チームとして上達するにはどうすればいいのか、どのようなチームを作ればいいのか、たくさんの壁にぶち当たりながら、チームとして、バスケット選手として、1人の人間として私達は成長してきました。そして、女子バスケットボール部が全国3位という成績を収めることができたのも、指導教員の先生方、先輩方、保護者、そして共に練習をしてくれた男子バスケットボール部の存在があったからだと思います。また、全国派遣に伴い、卒業生、在校生、先生方からあたたかいご声援、ならびに多大なご支援をいただきました。それらは全国で戦い抜く、力の源となりました。支えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。

これからも、バスケットボールをさせてもらえることに感謝し、壁にぶち当たりながらも成長していく姿を皆様にお見せできればと思います。今後とも、沖縄高専女子バスケットボール部をよろしくお願いいたします。



地域連携 推進センター



沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携や交流を推進し、共同研究等による技術開発、及び人材の育成等に取り組んでいます。

主な活動内容として、毎月定例の技術相談会や企業技術者等との懇談会の開催、知的財産セミナー、沖縄高専フォーラム等の実施、共同・受託研究、受託試験、技術相談も随時受け入れています。さらに地域の各種イベントへ出展し、本校の教育研究内容を発信しています。

また、地域交流推進の一環として、科学やものづくりの楽しさを実際に体験してもらう活動も行っています。本年度は、名護市大宮中学校やうるま市金武町小中学生対象の体験授業、宮古・八重山地域での科学教室他、出前授業や公開講座を開催しました。



宮古・八重山地域での実験教室



企業技術者等との懇談会



中学生対象体験授業



沖縄の産業まつり子ども科学教室

世界への扉 ～とびたて！ JAPAN～



来て、見て、聞いて、
開こう、
世界への扉！



こんにちは、沖縄高専のトビタテ！留学JAPAN 一期生となりました、平良美奈子と申します。トビタテ！プログラムにより、2015年8月から約2ヶ月、シンガポールのTemasek Polytechnic に留学を予定しています。現在は、先生や事務の方々にご協力頂きながら、留学に向けて準備を進めているところです。

トビタテ！留学JAPAN は、意欲と能力ある日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す気運を醸成することを目的としています。勉学に限ったことではなく、インターンやボランティアも広義の留学としています。トビタテ！一期生の中には、バングラデシュで貧困国の教育改革に挑戦したり、「日本の伝統芸能の素晴らしさを伝えたい！」という強い想いから、芸術の新たな伝え方を学ぶために留学した方もいます。

私が応募しようと考えたきっかけは、「海外に行きたい！」という単純な想いからです。

アメリカに行ったときに雄大な自然を、カナダに行った時に異国の文化を、目の当たりにしました。帰国後も「世界にまた出たい」と考えるようになり現地の方々と交流するなかで、「言語は二次で、世界に出るときに必要なのは度胸なんだ」と、私は強く感じました。

私はかねてから留学に興味を持っていましたが、英語も大して勉強してこなかったもので、「できるはずがない」と、漠然とした夢でしかありませんでした。ただ、私には向こう見ずな積極性と、やりたい！と思ったことに飛び込む爆發力を持っています。自身の短所を長所に変えるため、うだうだ考えるよりも先に体を動かせと、トビタテ！JAPANへ応募を決意しました。

書類選考では、自分だからこそできることを考えました。留学で何をしたいのか？どんな自分になりたいのか？困難を克服した経験は？トビタテ！で何が協力できる？留学先は？期間は？限られた時間で、自身の留学に意味を持たせるため、周囲の協力を得ながら準備しました。

「日本の技術力の根幹を担う高専生を世界に発信！英語も世界も怖くない、沖縄の将来を担うグローバルリーダーになるきっかけを高専生がつくる！」これが、私のトビタテ！留学JAPAN のテーマです。日頃の授業で培われるプレゼンテーション能力、論理的思考、高い専門性を兼ね備えた高専生は、一人ひとりが世界で渡り合えると確信しています。私自身が留学を夢見ながら足踏みしていたのと同じように、きっと沖縄高専にも海外に行くことを夢見ている子がいると思います。私がそのきっかけづくりをしたい。そのため、留学先と協力し、留学を主軸にした冊子を作成すること、私のトビタテ留学JAPAN 目的のひとつとしています。海外にどんな印象をもっているか、留学ってどんなこと？ぜひ、みんなの意見を聞かせてほしいです。

意見の一つ一つが私の留学に意味を持たせてくれます。

もし私と同じように留学を夢見ている人がいれば、声をかけてほしいです。TOEIC440点の私でもトビタテ！のお陰で留学することが出来ます。これから、英語の勉強、留学の実現のためにやることは山積みです。自身の目標のため、留学成功のため精一杯がんばります。応援よろしくお願いします。

創造システム工学専攻 生物資源工学コース 1年 平良 美奈子



2015年より4→5つのコースに

自然科学系、
複合・融合系人材コース

新興国コース

世界トップレベル
大学等コース

多様性人材コース

+

地域人材コース



トビタテ！
留学JAPAN

その経験が、未来の自信。

学生会より



平成 26 年度学生会長を務めております機械システム工学科 4 年の宮城渉です。今年度の学生会の活動として、4 月の体育祭に始まり、5 月には地域清掃、島巡りツアー、7 月には文化競技大会、七夕イベント、10 月には歌うま！決定戦、11 月には高専祭、12 月にはスポーツフェスタ、ツーデーマーチ、1 月には九州交流会、パフォーマンス大会と 1 年を通して様々なイベントを企画運営することができました。イベントの企画運営時に起きた予期せぬ事態にも臨機応変に対応し無事成功できたのも、学生会が一丸となって協力し合った賜物ではないでしょうか。

さて、間もなく 1 年の終りと共に別れの季節が近づいて参りました。

学生会では去りゆく卒業生の方々が沖縄高専での学生生活を良き思い出として締めくくられるよう卒業企画の準備を進めております。同時に、新入生の受け入れについても共に充実した学生生活を送れるよう準備を進めており、新たな仲間との出会いに胸をふくらませております。私の任期も残すところあとわずかですが、今年度得られた経験や他高専との交流会を通して得られた学びや繋がりを糧に、今後益々学生生活を発展させる一助となれるよう、学生会一同最後まで努力していく所存です。

学生会が今年度もこうして様々なイベントを企画運営してきたのも、後援会の皆様、先生方をはじめ学生、執行委員会のメンバーの協力があって成し得たことです。

この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度で本科・専攻科を終了される皆様の御健勝と御発展を祈念して結びの言葉とさせていただきます。

寮生会より



こんにちは。平成 26 年度女子寮長を務めております、メディア情報工学科 4 年の照喜名愛三里です。今年度の寮生会では、通年の取り組みに加え、特例大掃除や各委員会のポイントの見直しを行いました。指導寮生会では、新入生の指導をはじめ、短期留学生のお世話も行いました。整美委員会では、月 1 回行われる大掃除の計画・運営を行いました。保安委員会では、1 年に 1 回しかなかった避難訓練を前期・後期各 1 回ずつ行い、寮生への安全を守るための活動に務めました。保健衛生委員会では毎月の寮食アンケートを実施し、寮生が楽しく美味しくご飯が食べられるよう努めてくれました。企画広報委員会では、1 月に行われた寮祭の企画・運営を行いました。寮祭にはたくさんの寮生が参加してくれました。

今年度も、大きな問題がなく寮を運営できたのは、各委員会の委員長、寮生、寮務主事、寮事務の方々、先生方、そして保護者の方々の協力を頂いたからだと思います。この場をお借りして感謝申し上げます。

最後になりますが、来年度、再来年度と沖縄高専学生寮がよりよい学生寮になるため寮生会一同、今まで以上に協力していきます。

今後とも学生寮をよろしく願い致します。

後援会会長より



今春、沖縄高専本科を卒業、並びに専攻科を修了する学生の皆様、保護者の皆様、おめでとうございます。また、会員の皆様には、日頃より後援会活動へのご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

平成 26 年度も学業はもとより、学生の課外活動における活躍はめざましく、ロボコンは、3 年ぶりに全国大会へと駒を進めることが出来ました。

また、全国高専体育大会において女子バスケットボール部が 3 位、パソコン甲子園では 2 回目のグランプリ受賞など多くの大会やコンテストに出場、優秀な成績を挙げ、新聞等の報道で大きく取り上げられ、多方面から学生が注目されるようになりました。

更に、学業と課外活動を両立し、充実した学生生活を送っている先輩の姿は、後輩への大きな目標となっていることでしょう。今後も多くの学生の幅広い活躍を期待しています。

さて、本会は、諸先輩方々の意思を継承し、学生の活躍を支援するために学生の環境と将来を考える様々な活動を行っています。

本会の大きな活動の一つとして、毎年 6 月第一土曜日に総会を開催しており、総会では、学校長や主事の先生方による学校報告が行われ、閉会後は、講演会と懇親会も開催しています。

平成 26 年度は、伊東校長から、今後の沖縄高専の担うべき役割について非常に内容の濃いご講演をいただき、懇親会では、個人面談とは違った和やかな雰囲気の中、各学年の担任や副担任を中心に多くの教職員と学生や学校生活の様子について話し合うことが出来ました。

平成 27 年度総会は、平成 27 年 6 月 6 日（土）に開催を予定しておりますので、多くの会員の皆様のご出席をお待ちしています。

また、総会以外にも、各支部主催で主事や卒業生を招いて意見交換会や会員相互の交流会なども開催していますので、ぜひとも積極的に参加していただき、情報収集や交流の場としてご活用下さい。

今後とも学生の支援並びに会員相互の交流・連携を図ってまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

平成27年度学生募集結果一覧

◆推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	16	3	13	3
情報通信システム工学	12	2	12	2
メディア情報工学	20	8	7	6
生物資源工学	5	8	5	8
男女別計	53	21	37	19
合 計	74		56	

◆帰国子女特別選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	0	1	0	1

◆専門実習による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学	13	0	6	0
合 計	13		6	

(1名辞退)

◆学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	52	1	23	1
情報通信システム工学	34	4	27	2
メディア情報工学	49	8	20	4
生物資源工学	19	12	21	8
男女別計	154	25	91	15
合 計	179		106	



保健室より

今年度もあっという間の1年が過ぎようとしています。新年度を迎えるためにも健康であることが大切です。健康に対する考え方は人によって異なると思います。「今日の調子はどうだろう、今日の心臓の鼓動は」など自分の身体に話しかけてみるのはどうでしょうか。在学生の皆さんは、4月になると定期健康診断が行われます。健康診断を受けることで自分の身体を知るチャンス、忘れずに受けましょう。保健室では、主にケガや体調不良時などの対応、相談を受けています。保健室には身長・体重計、血圧計などがあります。身体測定や少し気になることの相談に保健室へ足を運んでみて下さい。

平成26年4月～平成27年1月保健室利用延人数(相談室利用含む)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
合計	198	204	237	196	35	69	216	159	157	185



来室理由としては頭痛や腹痛を訴えることが多く、症状が続くのであれば医療機関へ相談、受診をお勧めします。又、負傷(捻挫、打撲など)での来室も少なくありません。負傷した際の応急手当が大切です。【図】を参照下さい。

【図】応急手当の基本RICE

Rest (安静) ケガをしたところを動かさない	Ice (冷却) 氷で冷やす	Compression (圧迫) 包帯などで圧迫する	Elevation (挙上) ケガしたところをできるだけ心臓より高く上げる

休業期間中は生活リズムを乱さないよう心がけ、元気に新年度を迎えましょう。

訃報

謹んで、お悔やみ申し上げます。
本校情報通信システム工学科 比嘉勝也先生が平成27年2月17日にご逝去されました。

平成27年度（前期）行事予定表

平成27年3月5日現在

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 水		1 金		1 月	専攻科学力選抜試験願書受付	1 水	キャリア教育センター長講話(2年生)	1 土		1 火	
2 木	第1回担任会議	2 土		2 火	予備日	2 木		2 日		2 水	
3 金	在学生開寮	3 日	憲法記念日	3 水	予備日	3 金		3 月		3 木	
4 土	入学式(本科・専攻科) 新入生入寮	4 月	みどりの日	4 木	中間試験(複数同時実施科目)	4 土	学生寮特例大掃除	4 火		4 金	
5 日	入寮式・開寮式・対面式 オリエンテーション PC設定会	5 火	こどもの日	5 金	専攻科推薦選抜入学確約書 提出期限	5 日		5 水	金曜日の授業	5 土	
6 月	健康診断(専攻科1・2年,本科3・5年, 4年(メディア・生物) 課後補習試験(数学・本科1年) 教科書販売,新入生のノートPC設定会 LH校長講話(3年生)	6 水	振替休日	6 土		6 月		6 木	予備日	6 日	県高校新人体育大会(水泳)
7 火	健康診断(本科1・2年,4年機械・情報 図書館利用講習会(2年)(健康診断の裏) 新入生のノートPC設定会 LH校 教科書販売	7 木	水曜日の授業 第1回よろず相談会(1年生)	7 日		7 火		7 金	前期期末試験(4日間)※1~4年次 5学年,専攻科は,就活対応のため 後期開始前に実施	7 月	
8 水	全学年授業開始 交通安全講習会(2年生以下)(仮)	8 金	第一回定期学生会議 火曜日の授業	8 月	中間試験実施期間	8 水	薬物に関する講演会(1年生)	8 土		8 火	
9 木		9 土	地域清掃(学生会主催)(仮) 県高校総体(自転車) 先行開催~11日まで 学生寮特例大掃除	9 火		9 木		9 日		9 水	
10 金	開校記念日(授業日)	10 日		10 水		10 金		10 月		10 木	
11 土		11 月		11 木	沖縄高専交通安全祈願の日 交通安全旬間(20日まで)	11 土		11 火		11 金	
12 日		12 火		12 金		12 日		12 水		12 土	
13 月	産学連携協力会理事会・総会	13 水	性に関する講演会(2年生)(仮) 精神健康の調査(本科1年生)(仮)	13 土	専攻科学力選抜試験	13 月		13 木	学生寮居室点検・清掃 試験返却日	13 日	
14 火	部活動紹介(学生会主催)	14 木		14 日		14 火	TOEIC・IPテスト (5年生・専攻科1年生)	14 金	前期末全校集会	14 月	
15 水	交通安全講習会(3年生以上) カウンセラー講話(2年生)	15 金		15 月		15 水	学生寮月例大掃除	15 土	閉寮式	15 火	
16 木		16 土	専攻科推薦選抜試験	16 火		16 木	第2回定期学生会議	16 日	閉寮式	16 水	
17 金		17 日		17 水	Hyper QJアンケート(3年生以下) 学生寮月例大掃除	17 金	九州・沖縄地区高専体育大会(予定) (19日まで) 臨時休業日	17 月	臨時休業日	17 木	
18 土		18 月		18 木		18 土		18 火		18 金	県高校新人体育大会(陸上) ~20日まで
19 日		19 火		19 金	全九州高等学校体育大会(沖縄県開催) バドミントン(~22日) 専攻科学力選抜結果通知	19 日		19 水		19 土	
20 月	交通安全講習会(専攻科生) 学生寮避難訓練	20 水	性に関する講演会(1年生) 学生寮月例大掃除	20 土	学生寮特例大掃除	20 月	海の日	20 木		20 日	
21 火		21 木	中間試験対策実践講座 (予定)	21 日		21 火		21 金	夏季休業	21 月	敬老の日
22 水	カウンセラー講話(1年生) 学生寮月例大掃除	22 金	専攻科推薦選抜結果通知	22 月		22 水		22 土	全国高専体育大会(卓球) 23日まで	22 火	国民の休日
23 木		23 土		23 火	慰霊の日	23 木		23 日		23 水	秋分の日
24 金		24 日	県高校総体(水泳)	24 水	公開授業週間	24 金		24 月		24 木	前期末試験(2日間) ※5年・専攻科
25 土		25 月		25 木		25 土	サマースクール	25 火	夏季一斉休業	25 金	
26 日		26 火		26 金		26 日		26 水	旧盆 夏季一斉休業	26 土	開寮
27 月	専攻科推薦選抜願書受付期間 (5/8まで)	27 水		27 土	オープンキャンパス	27 月		27 木	夏季一斉休業	27 日	開寮式
28 火		28 木		28 日		28 火		28 金	夏季一斉休業	28 月	後学期授業開始
29 水	昭和の日 体育祭(登校日)	29 金	県高校総体(総合開会式) ~3日まで	29 月		29 水	第2回よろず相談会(1年生)	29 土		29 火	
30 木		30 土		30 火		30 木		30 日		30 水	
		31 日				31 金		31 月			
・開寮 4月3日 ・前学期授業開始 4月8日 ・ビジネスマナー講習会(5年生) ・メイクアップセミナー(5年生)				・メイクアップセミナー(4年生) ・ビジネスマナー講習会(4年生) ・校内美化清掃(学生会主催)				・校内美化清掃(学生会主催)		・専攻科:9月末から10月上旬 ・専攻科2年中間発表(4コース)	

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事